

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の分析【第3学年(第9学年)】

(様式4)

北区立都の北学園(後期課程)

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
平均正答率は東京都を2ポイント、全国を4.7ポイント上回った。 学習指導要領の内容別の比較では、「読むこと」の項目のみ東京都を1.4ポイント下回った。 問題別の集計結果では、「スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する」問題の正答率が東京都に対して9.7ポイント、全国に対して9.0ポイント低い結果となった。	学習指導要領の内容別に見た場合「A 話すこと・聞くこと」にかかわる問題の正答率が低かった。特に内容を正確に捉えるだけでなく、話し手の意図やねらいを把握しようとする主体的な聞き取りに課題があると思われる。 また、「しきりと」の意味として適切なものを選択する問題の正答率が低かった。日常生活では触れにくいレベルのさまざまな語句に意図的に触れる機会を与えていく必要がある。	様々なテーマで話をする機会をつくと同時に、聞き手としても意識的な聞きとりができるようにさせる。自分が聞きとった内容や感じとったことと、話し手の意図が合致するかを確認するなどの練習機会を設けながら、より主体的に聞くとする態度を育てていく。 語彙力を増強させるために普段の授業からさまざまな語句に触れさせ、例文作成など実際に使う練習をする中で習得させていく。

数学

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
平均正答率は東京都を4ポイント、全国を8.7ポイント上回った。全ての項目で東京都・全国を上回っており、特に「B 図形」の項目では東京都を6.3ポイント、全国を11.2ポイント上回った。 問題別集計結果からも、ほとんどの問題で東京都、全国平均を上回っていることが見とれるが、「A 数と式」の記述式の「思考・判断・表現」の問題では、東京都の平均と同等の結果となった。	①東京都の平均を下回った問題は「1から9までの数の中から素数を全て選ぶ」という問題であった。素数の意味を理解しているかどうかで課題があると考えられる。 ②東京都の平均と同等だった問題は「 $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する」という問題であった。式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかで課題があると考えられる。	①数の分類についての復習が不足していると考えられるため、授業の中で復習できる機会を意図的に組み込み、定期的に数の分類を扱う問題に触れることで、知識の定着を図る。 ②「思考・判断・表現」の問題を授業の中で多く取り扱い、数学的な表現を用いて説明をすることの経験を積ませる。また、応用問題を解き終えた後に、出てきた解を吟味したり、文字式の意味を読み取ったりする活動を行い、自分で説明ができるようになるための数学的な見方や考え方も育てていく。

理科

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
「エネルギー」を柱とする領域の電熱線に関する問題は平均正答率は東京都を11.6ポイント、全国を11.7ポイント上回った。 また、「生命」を柱とする領域の消化に関する問題の平均正答率は東京都を9.4ポイント、全国を6.6ポイント上回った。 それに対して「粒子」を柱とする領域の塩素の元素記号を問う問題の平均正答率は東京都を3.7ポイント、全国を1.3ポイント下回った。	「粒子」を柱とする領域の学習が不十分なので、できるだけモデルを提示して授業を行い、生徒に興味・関心をもたせるような授業を展開する。 既習事項の定着を図るために、授業の始めに、復習テストを実施し、既習内容を確認させる。単元の終わりには、問題演習を行ったり課題を出したりする。	「粒子」を柱とする学習内容については、目に見えない粒子のイメージをつかませるために、モデル図やアニメーション、実験を積極的に活用する。状態変化や物質の溶解を粒子の動きとして視覚的に示し、生徒自身がモデルを描いたり説明したりする活動を取り入れる。 既習事項の定着を図るため、授業の冒頭に5分程度の小テストを実施し、採点后に返却して理解度を確認させる。単元のまとめでは、振り返りシートを活用して学習内容を整理させ、課題を通して自分の理解をより深めさせる授業を展開する。